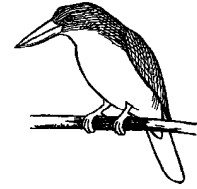


(公財)山階鳥類研究所
 〒270-1145 千葉県我孫子市高野山 115
 電話 : 04-7182-1101 Fax : 04-7182-1106
<http://www.yamashina.or.jp>



聳島で繁殖したアホウドリの対応について（お知らせ）

平成25年1月15日(火)
 (公財)山階鳥類研究所

<環境省 同時発表>

小笠原諸島聳島(むこじま)におけるアホウドリの新繁殖地形成事業(伊豆諸島鳥島のアホウドリのヒナを小笠原諸島聳島に移送し、新しい繁殖地を形成する事業(2008(平成20)年から実施)で、昨年11月14日にアホウドリのつがいが発卵していることが確認されましたが、メスが巣を飛び立って以降、戻ってこず、オスが約2ヶ月間抱卵している状態が続いております。

卵は無精卵の可能性もありますが、もしこの状況で孵化した場合、ヒナが衰弱死する可能性が極めて高いことから、環境省は(公社)日本動物園水族館協会の協力を得て、必要な場合にヒナ等の救護を試みることをいたしましたので、お知らせいたします。

※この事業は、(公財)山階鳥類研究所が、環境省、東京都、米国魚類野生生物局、三井物産環境基金、公益信託サントリー世界愛鳥基金等の支援を得て実施しているものです。

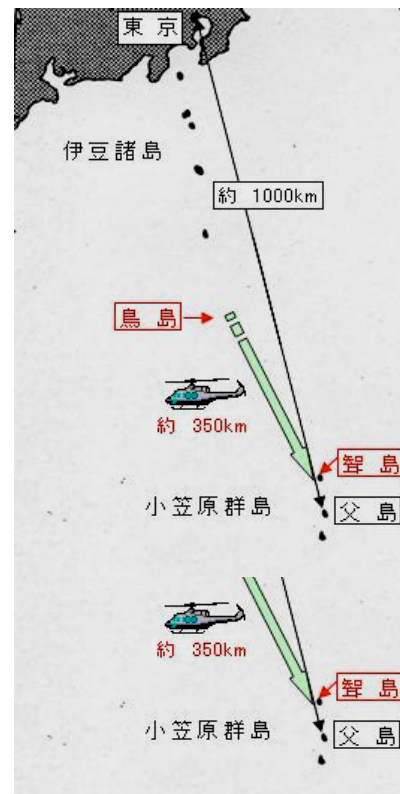
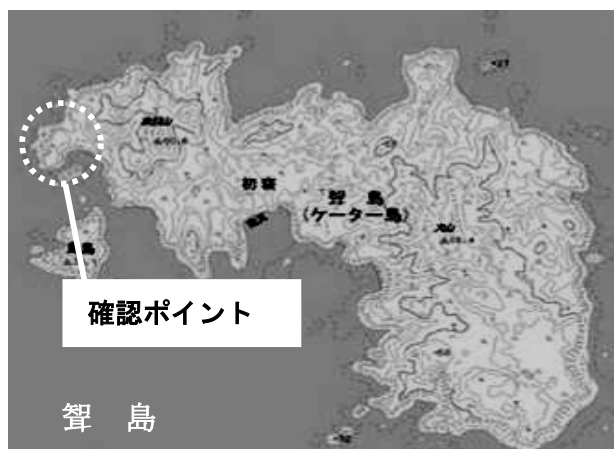
I 孵化予定日

平成25年1月17日

※実際の孵化日は前後する可能性があります。

II 産卵場所

聳島の北西部(別添図)



<参考>

○アホウドリについて

アホウドリ (*Phoebastria albatrus*) ミズナギドリ目アホウドリ科
絶滅危惧Ⅱ類 (環境省レッドリスト 2006)

分布及び個体数

- ・繁殖地は、日本の伊豆諸島鳥島と尖閣諸島のみ。(なお 2011 年 1 月に北太平洋のミッドウェー環礁で、鳥島生まれのアホウドリのつがい抱卵する卵が孵化した)。
- ・非繁殖期には、北太平洋のベーリング海やアリューシャン列島、アラスカ沿岸まで移動する。
- ・1949 年の調査で 1 度絶滅宣言が出されたが、1951 年に約 10 羽が鳥島で再発見された。
- ・減少要因は、1890～1900 年代に羽毛採取のために大量に捕獲されたことによる。

形態及び生物学的特性

- ・成熟個体で全長が 84～94cm。
- ・繁殖活動は 10 月～翌年 5 月。
- ・7 歳頃から繁殖に参加し、巣立った場所に戻ってきて繁殖を行う傾向が強い。

保護の対策

- ・種の保存法に基づく「国内希少野生動植物種」に指定 (平成 5 年)
- ・国の特別天然記念物

○これまでの経過

<2007 (平成 19) 年>

3 月～6 月 近縁種のクロアシアホウドリによる飼育試験を実施

<2008 (平成 20) 年>

2 月 19 日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ 10 羽 (雄 4 羽、雌 6 羽) を、ヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓ (山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。)

5 月 19 日～25 日 ヒナの巣立ち

5 月～9 月 人工衛星追跡を実施し、追跡できた 4 羽がベーリング海へ到達。
聳島の飼育ヒナと鳥島の野生ヒナの巣立ち後の行動に大きな違いは見られなかった。

<2009 (平成 21) 年>

2 月 5 日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ 15 羽 (雄 10 羽、雌 5 羽) をヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓ (山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。)

5 月 11 日～25 日 ヒナの巣立ち

<2010 (平成 22) 年>

2 月 8 日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ 15 羽 (雄 11 羽、雌 4 羽) をヘリ

コプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓ (山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。)

5月18日～29日 ヒナの巣立ち

<2011 (平成 23) 年>

2月8日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ15羽(雄8羽、雌7羽)をヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓ (山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。)

2008年の人工飼育個体6羽と2009年の飼育個体1羽の帰還を確認

5月12日～25日 ヒナの巣立ち

<2012 (平成 24) 年>

2月11日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ15羽(雄5羽、雌9羽、不明1羽)をヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓ (山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。)

2008年の飼育個体2羽と2009年の飼育個体4羽の帰還確認。人工飼育個体ではない4羽も確認。

5月15日～25日 ヒナ14羽の巣立ち

この結果、2008年～2012年の5年間で、ヒナ70羽を移送し、このうち69羽を巣立たせることに成功

この件についての連絡先

(公財) 山階鳥類研究所 (270-1145 我孫子市高野山115)

保全研究室長 尾崎清明

電話：04-7182-1107、Fax:04-7182-1106

メール：ozaki@yamashina.or.jp

山階鳥類研究所ウェブサイト：<http://www.yamashina.or.jp/>